

## 平成 30 年度予算について

## 1 事業計画

	28 年度 決算	29 年度 決見	30 年度 予算	29→30 増減
総延入院患者数	140,921 人	148,000 人	152,900 人	4,900 人
{ 一般 (うち、救命救急センター) 精神科病棟 感染症病棟	137,202 人	142,500 人	146,600 人	4,100 人
	(10,878 人)	(11,300 人)	(12,000 人)	(700 人)
	3,611 人	5,400 人	6,200 人	800 人
	108 人	100 人	100 人	0 人
一日平均入院患者数	386 人	405 人	419 人	14 人
全病床利用率	73.5%	77.0%	79.8%	2.8%
一般病床利用率	80.5%	83.5%	86.0%	2.5%
(うち、救命救急センター)	(74.5%)	(77.0%)	(82.2%)	(5.2%)
総外来患者数	218,525 人	221,000 人	222,900 人	1,900 人
(うち、救命救急センター)	(9,307 人)	(9,000 人)	(10,000 人)	(1,000 人)
一日平均外来患者数	886 人	895 人	900 人	5 人
入院患者 1 人 1 日当り診療単価	70,032 円	70,000 円	69,125 円	▲875 円
外来患者 1 人 1 日当り診療単価	13,470 円	14,000 円	14,241 円	241 円

(平成 30 年度事業計画 補足)

○患者数については、これまで以上に効率的・効果的な病床管理に努め、救急患者や紹介患者の一層の受入れを図ることにより、一般病床利用率を 86.0%として算定している。

## 2 平成30年度予算の状況

※公営企業決算統計ベース  
(単位:百万円、%)

### ◇収益的収支

		28年度(決算)	29年度(決見)	30年度(予算)	30年度(プラン)	29→30増減	対プラン増減
収 入	1. 医業収益 a	13,999	14,420	14,951	14,822	531	129
	(1) 入院収益	9,865	10,068	10,567	10,511	499	56
	(2) 外来収益	2,938	3,157	3,169	3,074	12	95
	(3) その他	1,196	1,195	1,215	1,237	20	▲ 22
	うち他会計負担金	960	959	961	959	2	2
	2. 医業外収益	1,464	1,373	1,393	1,439	20	▲ 46
	(1) 他会計負担金・補助金	1,084	1,006	998	1,042	▲ 8	▲ 44
	(2) 国(県)補助金	48	45	48	43	3	5
	(3) その他	332	322	347	354	25	▲ 7
	経常収益 (A)	15,463	15,793	16,344	16,261	551	83
支 出	1. 医業費用 b	16,007	16,637	17,047	16,898	410	149
	(1) 職員給与費 c	8,148	8,313	8,530	8,541	217	▲ 11
	(2) 材料費	3,076	3,313	3,487	3,370	174	117
	(3) 経費	3,078	3,261	3,277	3,261	16	16
	(4) 減価償却費	1,632	1,658	1,661	1,634	3	27
	(5) その他	73	92	92	92	0	0
	2. 医業外費用	815	803	846	820	43	26
	(1) 支払利息	335	275	273	276	▲ 2	▲ 3
	(2) その他	480	528	573	544	45	29
	経常費用 (B)	16,822	17,440	17,893	17,718	453	175
経常損益 (A)-(B) (C)	▲ 1,359	▲ 1,647	▲ 1,549	▲ 1,457	98	▲ 92	
特別 損益	1. 特別利益 (D)	3,137	79	0	0	▲ 79	0
	2. 特別損失 (E)	651	171	100	100	▲ 71	0
	特別損益 (D)-(E) (F)	2,486	▲ 92	▲ 100	▲ 100	▲ 8	0
純損益 (C)+(F)	1,127	▲ 1,739	▲ 1,649	▲ 1,557	90	▲ 92	
累積欠損金	▲ 5,976	▲ 7,797	▲ 9,446	▲ 9,389	▲ 1,649	▲ 57	
現金預金	2,974	2,458	1,848	1,640 ⇒ 2,167	▲ 610	⇒ 208 ▲ 319	
経常収支比率 $\frac{(A)}{(B)} \times 100$	91.9	90.6	91.3	91.8	0.8	▲ 0.4	
医業収支比率 $\frac{a}{b} \times 100$	87.5	86.7	87.7	87.7	1.0	▲ 0.0	
職員給与費対医業収益比率 $\frac{c}{a} \times 100$	58.2	57.6	57.1	57.6	▲ 0.6	▲ 0.6	

・30年度の入院収益については一般病床利用率を86.0%とした上で患者数増を、外来収益については1日当り平均患者数を29年度と同数とした上で診療単価増をそれぞれ見込み、いずれも増額している。一方、経常費用については、材料費等の大幅な伸びにより増となっている。

## ◇資本的収支

(単位:百万円)

		28年度(決算)	29年度(決見)	30年度(予算)	30年度(プラン)	29→30増減	対プラン増減
収 入	1. 企業債	3,771	208	300	300	92	0
	2. 他会計出資金	580	814	803	826	▲ 11	▲ 23
	3. 他会計負担金	20	20	20	20	0	0
	4. 国・県補助金	0	0	0	0	0	0
	5. その他	1,319	1	0	0	▲ 1	0
	収入計 (A)	5,690	1,043	1,123	1,146	80	▲ 23
支 出	1. 建設改良費	308	372	366	302	▲ 6	64
	2. 企業債償還金	8,522	1,440	1,421	1,425	▲ 19	▲ 4
	支出計 (B)	8,830	1,812	1,787	1,727	▲ 25	60
	差引不足額 (A)-(B) (C)	▲ 3,140	▲ 769	▲ 664	▲ 581	105	▲ 83

## ◇一般会計からの繰入金の見通し

(単位:百万円)

	28年度(決算)	29年度(決見)	30年度(予算)	30年度(プラン)	29→30増減	対プラン増減
収益的収支	2,044	1,965	1,959	2,001	▲ 6	▲ 42
資本的収支	600	834	823	846	▲ 11	▲ 23
合計	2,644	2,799	2,782	2,847	▲ 17	▲ 65

## ◇正職員数(毎年4月1日現在)

(単位:人)

	28年度(決算)	29年度(決見)	30年度(予算)	30年度(プラン)	29→30増減	対プラン増減
医師	106	108	110	111	2	▲ 1
看護師	606	610	607	610	▲ 3	▲ 3
医療技術職	104	110	115	112	5	3
事務・技術・技能職	61	63	62	63	▲ 1	▲ 1
合計	877	891	894	896	3	▲ 2

・28年度決算時に病院跡地売却収入による企業債の繰上償還を行ったこと等により元金償還額が減少し、それに伴って一般会計からの繰入金(収益・資本)も減となっている。

・30年度の職員数は、医師及び医療技術職の増等により、前年度比で3人増となっている。

### 3 数値目標を設定した項目に係る実績

#### 【戦略Ⅰ】 これからのニーズを踏まえた医療提供体制の充実

	28年度 決算	29年度 決見	29年度 プラン	対プラン 増減
手術件数(手術センター分)	4,797件	4,800件	4,900件	▲100件
分娩件数	955件	960件	960件	0件
臨床研修医受入れ数	28人	32人	32人	0人
救急患者受入れ数	14,524人	14,700人	15,200人	▲500人
救急車搬送患者受入れ数	5,722人	6,500人	5,900人	600人
救命コール受入れ数	441件	570件	420件	150件

○手術件数は28年度と同程度、分娩件数はプランの目標件数と同程度になる見込み。

○救急車搬送患者及び救命コール(重症度・緊急度が高いと判断される場合、救急隊の出動要請と同時に、消防本部から個々の医療機関に対し収容を依頼するもの)受入れ数については、いずれもプランの目標件数を大きく上回る見込み。

#### 【戦略Ⅱ】 地域の医療機関から信頼され、市民に選ばれる病院づくり

	28年度 決算	29年度 決見	29年度 プラン	対プラン 増減
紹介率	78.0%	80.5%	76.5%	4.0%
逆紹介率	77.6%	81.5%	76.5%	5.0%
紹介元医療機関数	1,470件	1,420件	1,420件	0件
紹介先医療機関数	1,510件	1,480件	1,510件	▲30件
病院・開業医からの救急患者受入 応需率	76.5%	74.8%	80.0%	▲5.2%

○紹介率については地域の医療機関への訪問対象の拡大や健診機関へ訪問などに取り組んだこと、逆紹介率については各医療機関・介護施設と緊密な連携を図ったことにより、いずれもプランの目標件数を上回る見込み。

○病院・開業医からの救急患者受入応需率については、依頼件数及び受入数のいずれも前年度より減少し、プランの目標までに達しない見込み。

**【戦略Ⅲ】市立病院を必要とする患者さんを速やかに受け入れる体制の構築**

	28年度 決算	29年度 決見	29年度 プラン	対プラン 増減
1日当り入院患者数	386人	405人	414人	▲9人
月平均新入院患者数	1,076人	1,130人	1,130人	0人
一般病床利用率(再掲)	80.2%	83.5%	85.4%	▲1.9%
1日当り外来患者数	899人	895人	900人	▲5人
月平均新外来患者数	1,782人	1,770人	1,850人	▲80人

○1日当たり入院患者数については、救急搬送患者等の積極的な受け入れを図るとともに、一般病棟及びICU・HCUでの円滑なベッドコントロールに取り組んだことなどにより、前年度を上回る見込み。増加が見込まれる主な診療科は内科、消化器内科、脳神経外科、精神科、整形外科である。

○外来患者数については、1日当たり患者数、月平均患者数いずれも前年度並みの実績となる見込み。

**【戦略Ⅳ】収益アップ・コスト縮減両面に亘る経営改善策の徹底**

	28年度 決算	29年度 決見	30年度 予算	30年度 プラン	29→30 増減	対プラン 増減
経常収支比率	91.9%	90.6%	91.3%	91.8%	1.2%	▲0.5%
医業収支比率	87.5%	86.7%	87.7%	87.7%	1.5%	0.0%
職員給与費対医業収益比率	58.2%	57.6%	57.1%	57.6%	▲0.9%	▲0.5%
100床当り職員数	167人	170人	170人	171人	0人	▲1人
診療材料費対医業収益比率	11.6%	12.2%	12.6%	11.8%	0.3%	0.8%
薬品費対医業収益比率	7.8%	8.1%	8.1%	8.3%	▲0.1%	▲0.2%
経費対医業収益比率	22.0%	22.6%	21.9%	22.0%	▲0.8%	▲0.1%

○29年度の経常収支比率及び医業収支比率については、医業収益も増となるものの、材料費をはじめとして費用も増となることで前年度を下回り、職員給与費対医業収益比率については前年度よりも改善する見込み。

○30年度予算については、いずれの項目においても改革プランにおける30年度目標との大きな乖離は出ていない。